

本資料は 2019 年 10 月 30 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

## クレディ・スイス・グループ、2019 年第 3 四半期業績を発表

前年同期比で引き続き順調な増益：

税引前利益は 70% 増の 11 億スイス・フラン、純利益<sup>1</sup>は前年同期比 108% 増の 8 億 8,100 万スイス・フラン、年初来の新規純資産は過去最高の 720 億スイス・フラン、グループの有形株主資本利益率は 9%、グローバル・マーケット部門の収益は前年同期比 34% 増

### 2019 年第 3 四半期のハイライト

- 当グループの 2019 年第 3 四半期の税引前利益は、前年同期比 70% 増の 11 億スイス・フラン、純利益<sup>1</sup>は前年同期比 108% 増の 8 億 8,100 万スイス・フランでした。
- 当グループの有形株主資本利益率 (RoTE) は、前年同期比で 4.5% 上昇の 9% でした。これはインストラボの譲渡益を反映したもので、仕組債の会計上の変動によって一部相殺されています。
- 1 株当たり有形純資産価値は 16.24 スイス・フランとなりました。有形純資産価値は、2019 年 9 月末までで 12 億スイス・フラン増加しました。
- 2019 年 9 月末までの当グループの新規純資産は過去最高の 720 億スイス・フランとなり、このうち 2019 年第 3 四半期の新規純資産は 128 億スイス・フランでした。
- 厳しい市場環境においても堅調な伸展を実現しました。ウェルス・マネジメント事業<sup>2</sup>については、前年同期比で、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益で 12% の増加、純利息収益と経常手数料は横ばいでした。
- アセット・マネジメント事業の収益は 12% 増となり、運用手数料は 11 四半期連続で前年同期比での増加となりました。
- グローバル・インベストメント・バンキング事業<sup>3</sup>の収益は、米ドルベースで前年同期比 8% 増となりました。
  - グローバル・マーケット部門の収益は前年同期比 34% 増の 14.3 億米ドルとなり、税引前利益は 2 億 7,200 万米ドルでした。債券販売及び取引事業が米ドルベースで前年同期比 72% 増、株式販売及び取引事業が同 11% 増となりました。
  - グローバル・アドバイザー及び引受業務の収益<sup>4</sup>は、米ドルベースで前年同期比 18% 減となりました。
- 資本基盤は引き続き堅調
  - ティア 1 レバレッジ比率は、前年同期の 5.1% に対して 5.5% でした。
  - CET1 資本は 374 億スイス・フランで、前年同期比で 18 億スイス・フラン (5%) 増加しました。
  - CET1 比率は 12.6%<sup>5</sup> (調整後では 12.4%) でした。
- 年初来の株主還元<sup>6</sup>は、自社株買い (6 億 9,500 万スイス・フラン) 及び配当 (6 億 9,500 万スイス・フラン) を合わせて 14 億スイス・フランでした。

クレディ・スイス最高経営責任者 (CEO)、ティージャン・ティアムは次のように述べています。

「2019年第3四半期も、インベストメント・バンクとしての優れた能力を備えた、業界をリードするウェルス・マネージャーを目指すという戦略を引き続き実践してきました。厳しい環境下においても引き続きウェルス・マネジメント事業の成長に注力した結果、収益は増加し、当グループの新規純資産は年初来で過去最高の 720 億スイス・フランとなりました。グローバル・インベストメント・バンキング業務<sup>3</sup>の収益も、マーケット業務、アドバイザー、引受及びファイナンス業務にわたり力強く伸展し、前年同期比では8%増となりました。全体として当グループは、12四半期連続で前年同期比プラスの営業レバレッジと利益成長を達成しました。

インパクト・アドバイザー及びファイナンス活動については、世界的に大きな好影響をもたらす、お客様の関心が高まっている分野でもあるため、引き続き投資を進めます。当グループの活動における成長分野にしていきたいと考えています。

当グループは、さらなる収益性のある成長を達成する上で有利な立場にあり、その中で、資産と負債の必要性の両方に対応したソリューションを提供する統合的なアプローチによって、お客様にもご満足いただけるものと考えています。お客様の目的の達成をお手伝いすることは、取りも直さず当グループが確かな株主価値をもたらすことに他なりません。」

## 見通し

2019年第4四半期に向けては、世界の多くの地域が休暇シーズンを迎えるため、通例の季節的な収益の落ち込みが見込まれます。また、米中の貿易摩擦やブレグジットに代表される、目下の厳しい地政学的環境による逆風も続くものと予想されます。これにより設備投資や投資判断はさらに慎重なものとなり、特に2020年及び2021年にはそれが一層顕著となるでしょう。

とはいえ、当グループが最新のグローバル・ウェルス・レポート<sup>7</sup>で示したとおり、ウェルス・マネジメント事業の長期的な見通しは引き続き順調で、このトレンドを統合的なアプローチを通じて活用していけるものとみています。2016年以降、当グループは大幅にリスクを削減し、コスト基盤を低下させてきました。相対ベースではアウトパフォームできる優位な立場にあると考えています。

## 主要指標

単位：百万スイス・フラン	2019年 第3四半期	2019年 第2四半期	2018年 第3四半期		2019年 第2四半期 との比較	2018年 第3四半期 との比較
純収益	5,326	5,581	4,888		-5%	9%
税引前利益	1,142	1,302	671		-12%	70%
株主帰属純利益	881	937	424		-6%	108%
有形株主資本利益率	9.0%	9.7%	4.5%		-0.7pp	4.5pp

クレディスイス・インストラボの譲渡による 3 億 2,700 万スイス・フランの増収を除いた主要指標

単位：百万スイス・フラン	2019年 第3四半期	2019年 第2四半期	2018年 第3四半期		2019年 第2四半期 との比較	2018年 第3四半期 との比較
純収益	4,999	5,581	4,888		-10%	2%
税引前利益	815	1,302	671		-37%	21%

脚注

1. 株主帰属純利益。
2. スイス・ユニバーサル・バンク（SUB）部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント（IWM）部門及びアジア太平洋（APAC）部門のウェルス・マネジメント & コネクテッド（WM&C）事業内のプライベート・バンキング（PB）事業の合算収益に関連する。
3. グローバル・マーケッツ部門、インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ部門に加えて、APAC 部門のマーケッツ事業及び APAC 部門の WM&C 事業内のアドバイザー、引受及びファイナンスの収益が含まれる。APAC 部門のアドバイザー、引受及びファイナンス収益は、四半期末の平均為替相場で米ドルに換算される。
4. 全部門におけるアドバイザー並びに債券及び株式の引受けで生じたグロスのグローバル収益。
5. 過去のストラテジック・リゾリューション・ユニット（SRU）のユーロ圏エクスポージャーの一部が償還されたことによる、資本計算の適用期間変更によって発生した 60 億スイス・フランのリスク加重資産（RWA）増加の影響を除く。
6. 2019 年 10 月 29 日現在。
7. メディアリリース「グローバル・ウェルス・レポート 2019」（2019 年 10 月 21 日）参照。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。